



モッビー

特定非営利活動法人
ふれ愛びっく大阪クラブ

責任者 川口 衷

柏原市大正 1-4-24

<http://www.kawachi.zaq.ne.jp/fureai/>

全日本選手権大会!

出場チーム決定!!

平成19年6月30日(土)、大阪府大阪市「大阪リバーサイドホテル」において、「第8回全日本グランドソフトボール選手権大会第2回実行委員会」が開催され、9月15日(土)～17日(祝)に大阪府立久宝寺緑地「陸上競技場」において開催される、「第8回全日本グランドソフトボール選手権大会」に出場する12チーム及び大会概要等が決定した。

この大会は、全日本グランドソフトボール連盟が主催、地元大阪府・大阪市視覚障害者福祉協会及び特定非営利活動法人ふれ愛びっく大阪クラブが主管する団体で、4月から準備が進められ、大会を成功させるため、グランドソフトボール関係者に賛助金などの協力を呼び掛けている。

この大会に出場するチームは、昨年11月に三重県津市で開催された「第7回全日本グランドソフトボール選手権大会」優勝大阪府・準優勝広島市チーム、また、10月に兵庫県淡路市で開催された「第6回全国障害者スポーツ大会」優勝山梨県が参加、名実ともにグランドソフトボール日本一を懸けた大会となる。

なお、大会の主管団体として、第7回全国障害者スポーツ大会で準優勝した「徳島県」チームの参加を連盟役員に要請した。徳島県チームは、昨年まで全国障害者スポーツ大会に毎回出場、優勝・準優勝の実績があり、徳島県チームの参加が7月16日連盟から参加の報告があり、真の日本一の大会となった。

10月に秋田県秋田市で開催される「第7回全国障害者スポーツ大会」に出場する三重県・大阪市・広島市が現在の実力をどこまで発揮するか、また、残念ながら大会に出場できなかったチームが、出場チームに対してどこまで立ち向かうかグランドソフトボール関係者は興味津々である。今から、大会での熱戦が期待される。

大会出場チーム

第1ブロック

北海道 (札幌市)
東北 (東北選抜)
関東 (山梨県)
北信越(長野県)

第2ブロック

東海(三重県)
中国(広島市)
四国 (高知県)
九州(九州選抜)

第3ブロック

近畿(神戸市)
前年度優勝(大阪府)
推薦(徳島県)
開催地(大阪市)

私たちは、グランドソフトボールを応援します。

株式会社 パーキングロット

株式会社 高橋ホールディングス

東京閩人地元愛知を破り優勝する!!



平成19年5月3日～4日の二日間、「愛知県立一宮総合運動場」(愛知県一宮市)において、「第26回中日本グランドソフトボール愛知大会」が全国各地から12チームが参加して開催された。

大会は、第一日目三チームに分かれての予選リーグ戦12試合、第二日目は、予選成績による順位決定戦として9試合が行われた。試合は、7回戦、または1時間30分をもって行われ、所要時間で試合が終了しない場合は、パーセンテージ方式を採用された。予選リーグ戦一位の4チームが、準決勝戦2試合、愛知県 8対1 大阪府、東京閩人 5対3 ワイルドジョーカーズ が行われ、愛知県・東京閩人が勝利、13時30分から優勝をかけて決勝戦が行われた。

一回表東京閩人は、制球の定まらない愛知県小室投手の立ち上がりをつまみ、二番勝間選手のツーラン・ホームラン、武者監督の満塁ホームランで一挙7点を挙げ試合を有利に進めた。一方愛知県チームは、一回裏、内田投手の立ち上がりをつまみようとしたが、二死満塁、四番溝上監督は打たしてもらえず、押し出しの四球で一点、五番力が入り見事な空振りの三振、一回の攻防が試合を決し、8対1 で、地元愛知県を破り東京閩人が優勝を勝ち取った。なお、最優秀選手賞として 東京閩人の内田(全盲)投手・勝間(弱視)選手が輝いた。

準決勝戦に駒を進めた四チームの内、東京閩人・ワイルドジョーカーズは、選手も若く、グランドソフトボールに係わる情熱も高く好試合を展開、グラソフも若返りが図られつつあることを実感した。

この大会に参加したチームは、この試合経験を大きな糧として、12日～13日をスタートする、全国各ブロックで開催される「第7回全国障害者スポーツ大会地区予選会」で、好成績を収め10月に秋田県秋田市で開催される「第7回全国障害者スポーツ大会」に出場されることを祈念している。

この大会を運営するため、愛知県7名・三重県1名の審判員とともに、ふれ愛びつく大阪クラブから廣谷審判長をはじめ13名の審判員が参加、ふれ愛びつく大阪クラブ奥野記録長も愛知県記録員の方々と協力し大会の記録に努めた。

また、ボランティアとして参加された「愛知県障害者スポーツ指導員協議会」手話グループ「ひまわり」の方々も、会場設営・ボール出しなどで協力いただいた。本当にありがとうございました。これからも宜しくお願いします。

順位

優勝	東京閩人				
準優勝	愛知県	第三位	大阪府・ワイルドジョーカーズ		
第五位	京都府	第六位	浜松クレバース	第七位	奈良県・滋賀県
第九位	山梨県	第十位	三重県	第十一位	東京フェニックス
第十二位	岐阜県				

第27回中日本グランドソフトボール大阪大会参加チーム

日時：平成19年9月24日(祝)

場所：大阪府立久宝寺緑地「陸上競技場」 3チームによる予選リーグ戦

試合：成績上位チームによる決勝トーナメント戦 or 予選リーグ戦敗者チームによるオープン試合

参加予定：(7月11日現在)

ワイルド・ジョーカーズ 山口県 愛知県 京都府 東京フェニックス 東京閩人 石川県 大阪府 滋賀県 奈良県 大阪市 三重県

大阪市神戸を破り全国へ



平成19年5月12日(土)～13日(日)、和歌山県紀ノ川市「桃山グラウンド」において、8チームが参加して「第7回全国障害者スポーツ大会近畿地区予選会」が開催された。

12日18時から「ホテルいとう」において、代表者会議・抽選会を行い対戦相手が決定、13日9時から和歌山県代表者・紀の川市長・紀の川市議会議長、関係団体の代表者を迎え、開会式が行われ、和歌山県チーム藤岡 賢さんの力強い宣誓で熱戦の火ぶたを切った。

なお、この大会の立会人として、全日本グランドソフトボール連盟副会長渡辺照夫さんが、遠路埼玉からお越しになり、大会運営状況を視察された。

大方の予想では、決勝進出は京都府・大阪府ではないかと思われたが、一回戦で京都は先制するも大阪市の打棒が奮い逆転され5対6で昨年優勝の京都が残念ながら敗退した。

大阪市は、京都に逆転した勢いをそのまま続け、準決勝戦対兵庫県は、猛打と投手の力投で11対0で完封勝利、決勝戦は、強敵大阪府を二本のホームランで制した神戸市との対戦となった。

決勝戦は、神戸市が一回表1点を先制するも、大阪市が長打を織り交ぜすぐに逆転、試合を有利に進め、二回にも5点をあげ、神戸市の追撃をかわし見事優勝、10月秋田で開催される「第7回全国障害者スポーツ大会」出場権を獲得した。

大阪市の優勝は、打線の爆発と全盲選手の活躍に目を見張るものがあり、観戦者を驚かせた。なお、大阪市は、平成9年に地元大阪で開催された「第33回全国身体障害者スポーツ大会 ふれ愛びっく大阪」(成績 第三位)以来の全国大会出場である。おめでとう大阪市チーム、更なる研鑽を重ね全国大会での活躍を期待します。

ふれ愛びっく大阪クラブから、この大会を運営するため審判員15名・記録員4名が参加、他のボランティア団体(和歌山県立盲学校、レッツ・わかやま、和歌山グループ声、和歌山県立粉河高等学校、社団法人ガールスカウト日本連盟和歌山県支部)の方々と協力し、大会を成功させるため努力した。

一回戦

和歌山市 2対8 兵庫県 大阪市 6対5 京都府 滋賀県 2対5 神戸市 奈良県 2対4 大阪府

準決勝戦

兵庫県 0対11 大阪市 神戸市 7対2 大阪府

決勝戦

大阪市 7対3 神戸市

決勝戦

嵐の快進撃 大阪市 近畿ブロック代表 国体へ!!

先行された大阪市は一回裏すぐ、先頭打者(四球)を三番徳原のセンターオーバーのエンタイトル三塁打で返し、まず同点とし、その三塁走者を四番松井のショートゴロ内野安打で逆転し、2回には打者10人を送り、5点を加点試合を決めた。

一方神戸市は、滋賀・大阪府の競合を連破したが、決定戦チャンプは成らなかった。試合終了後、本部審判団スタッフにお礼の挨拶に整列(神戸)、エールを送りつつ、来年は国体ブロック代表を射止めよと、私もグットくるものを押さえた。頑張れ神戸市!!

(記録 大谷和之記録員 戦評 奥野 繁 記録長)

大阪市チーム監督血袋さんのコメント

我がチームは、初めて近畿大会の優勝旗に、大阪市チームの文字を加える事が出来ました。今年の近畿大会では、無欲が勢いになり優勝出来たと思います。今度は勢いある各地区代表の国体。欠点を減らし走攻守とも向上させ、近畿代表として恥ずかしくない試合を、一試合でも多くやり、秋田国体を楽しんで、そして何年か振りに近畿に優勝旗を持って帰りたいと思います。みんなで頑張ります！大阪市チーム一同

和歌山県大阪府を破り全国へ



平成 19 年 6 月 7 日(木)～8 日(金)、奈良県大和郡山市「総合公園多目的運動場」において、「第 54 回近畿盲学校野球(グランドソフトボール)大会」が、主催近畿盲学校体育連盟・主管奈良県立盲学校で、近畿から 8 チームが参加して、盛大に開催された。

和歌山県立盲学校が、大会 6 連覇を狙う大阪府立盲学校を接戦で破り、第 18 回大会以来 36 年ぶりに優勝の栄冠を勝ち取った。

和歌山盲学校は、初戦京都府立盲学校を 8 対 4 で破り、準決勝戦で滋賀県立盲学校に 5 対 4 で逆転サヨナラ勝ちし、その勢いをそのまま決勝戦に持込み、一回表一番打者三塁打・二番打者の二塁打で大阪府の立ち上がりを攻め、2 点の先取点をあげた。

一方、5 連覇の実力をもつ大阪府も、一回裏、長打を織り交ぜ 5 点をもぎ取り逆転、和歌山は、二回表に 2 点を、四回にも 3 点を入れ試合を逆転、大阪府は四回裏、長打を織り交ぜ同点に追いつくが、5 回表、和歌山は全盲打者の四球を足がかりに、弱視打者の投手にダイレクトに当たる強襲二塁打等で 2 点を入れ、再度逆転、五回裏大阪府の猛攻を防ぎ、4 度目の優勝を勝ち取った。

優勝した和歌山県立盲学校は、チームワークが素晴らしい大変好感の持てるチームであり、観戦者を驚かせた。和歌山県立盲学校は、8 月 22 日(水)～24 日(金)に、山梨県甲府市で開催される「第 22 回全国盲学校野球(グランドソフトボール)大会」に近畿代表として出場する。全国大会での活躍を期待する。

6 年連続優勝を狙う大阪府立盲学校は、全盲打者に四球を与えるなど、残念ながら投手のコントロールが定まらず、結果的には和歌山の勢いに敗れたが、素晴らしいチームであり、更なる努力を重ねられ来年京都で開催される大会で、優勝されることを期待する。頑張れ大阪府立盲学校!!

なお、ふれ愛びっく大阪クラブは、二日間にわたり審判員等延べ 16 名を派遣、近畿盲学校の先生方と協力し、競技運営にあたった。

試合結果

1 回戦	大阪府 1 対 0 和歌山県 9 対 2	大阪市 京都府	福井県 2 対 4 滋賀県 26 対 0	奈良県 兵庫県
準決勝戦	大阪府 8 対 4 和歌山県 5 対 4	奈良県 滋賀県	3 位決定戦	滋賀県 8 対 1 奈良県
決勝戦	和歌山県 9 対 7	大阪府		
個人賞	投手賞 宮井英次(和歌山県) 敢闘賞 吉井亮司(大阪府)		打撃賞 伊織健悟(和歌山県)	

全国野球大会に向けて

和歌山県立和歌山盲学校
野球部主将 伊織健悟

僕は、今年野球部のキャプテンになりました。中学 3 年生ということもあり、不安な気持ちもありましたが、楽しみだという気持ちの方が大きかったです。

そして、いよいよ野球部の練習が始まりました。今年の野球部員は 17 名でした。17 名という野球部の部員をキャプテンとしてまとめられるのかという不安もありましたが、みんなで練習を重ねるうちに不安な気持ちはどこかにいき、「キャプテンをして良かった」と思えてきました。4 月、5 月と過ぎ、いよいよ近畿大会の日がやってきました。京都、滋賀、大阪府に勝ち、36 年ぶりに優勝することができました。全国大会では、自分たちの持っている力を十分に発揮し、みんなで楽しく、悔いの残らない試合をしたいと思っています。初めての全国大会、頑張ります!!

平成19年度総会開催される



平成19年6月30日(土)、大阪リバーサイドホテル「会議室」において、平成19年度特定非営利活動法人ふれ愛びっく大阪クラブ総会が多くの来賓の方々を迎えて、盛大に開催された。

中尾総務委員長の司会で開会、川口 表理事長が「今までグランドソフトボールの普及・発展に頑張ってきた、これからもふれ愛びっく大阪クラブは精一杯頑張りたいので、ご指導・ご協力をお願いしたい」との挨拶があり、来賓として参加いただいた多くの方々を代表して、全日本グランドソフトボール連盟大橋 博会長のご祝辞をいただいた。

議長として北山 武理事を選任、第1号議案平成18年度事業報告について、第2号議案平成18年度決算報告がそれぞれあり、質疑の結果、承認された。

引き続き、第3号議案平成19年度事業計画について、第4号議案平成19年度予算案についてそれぞれ提案があり、多くのご意見をいただき、無事承認され総会が無事終了した。

正会員総数 50 名

参加者 37 名(うち委任状による出席者 12 名)



参加いただいた来賓の方々

大阪府視覚障害者福祉協会副会長	垣野 泰彦 さん
全日本グランドソフトボール連盟会長	大橋 博 さん
全日本グランドソフトボール連盟事務局長	金子 芳博 さん
全日本グランドソフトボール連盟総務部長	品川 時幸 さん
全日本グランドソフトボール連盟海外渉外担当部長	供田 彰 さん
全日本グランドソフトボール連盟副審判部長	水田 吉太郎 さん

掲示板 (匿名)

最近、グラソフを見ていて思うことが多々あるが、そのうちマナーあるいはモラルの問題と思われることが、例えば試合でのヤジや暴言である。これは選手同士だけでなく審判あるいは観客への暴言も含まれる。

昨年、淡路でおこなわれたのじぎく大会では、地元選手による観客の小学生への暴言があった。これは当時、連盟の掲示板でもかなり議論をよんだが、残念なことに、この暴言事件が各チームへの教訓、あるいは警告にはならなかったようだ。ごく最近もヤジによる不快感を問題にした投稿があったが、連盟にはこうした問題に対して各チームへの指導をおこなってほしいと思う。ヤジや暴言の類は、試合を見る側としても決して愉快なものではない。他チームをからかい、非難し侮辱するようなヤジを見過ごしてもいいのだろうか。ヤジをとばすことで、周囲の雰囲気が悪く、相手チームだけでなく観客にも不快感を与えていることに気付いてほしい。試合に野次はつきものという間違った見識は捨ててほしいと思う。もちろん腹が立ったから、観客へ暴言を吐くなどは問題外である。

これから先、グラソフを発展させていくには、各チーム、また選手個々の意識を高めていくことが重要となってくるのではないかと思う。同じ時間、同じ場所を共有する両チームと審判、観客が一体となれる試合。勝っても負けても、このチームと試合ができてよかった。この試合の審判ができてよかった。この試合を見るのができてよかったと思えるような、すがすがしい気持ちになれる試合をしてほしいと思う。

グラウンドソフト

6月3日(日)大阪の天王寺高校グラウンドにおいて、大阪阿倍野ライオンズクラブ主催でNPOふれ愛びっく大阪クラブの協力のもと、グラウンドソフトボール・フェスティバルが行われました。阿倍野ライオンズクラブは、昨年のアメリカ遠征などで当連盟に対して多大なるご支援を賜っているところです。

曇り空の下、10時に開催され、視覚障害者のガイドの仕方、ルールの説明に続き、大阪府チームと大阪府立盲学校チームの模範試合がおこなわれました。午後からは、阿倍野ライオンズクラブと大阪府チーム、地元中学生チームと大阪府立盲学校チームの友好試合が行われました。どの試合も真剣さの中に楽しさあり、好プレイ珍プレイの続出に盛り多いイベントでした。



日時 平成19年6月3日(日)
 場所 大阪府立天王寺高校グラウンド
 主催 大阪阿倍野ライオンズクラブ
 後援 全日本グラウンドソフトボール連盟
 特定非営利活動法人ふれ愛びっく大阪クラブ

第7回全国障害者スポーツ大会

平成19年10月13日～15日

、秋田県秋田市で開催される「第7回全国障害者スポーツ大会」出場チームが、5月13日～6月17日にかけて地区予選会・代表決定戦で参加チームが決定した。

ブロック名	予選会日時	開催地	優勝チーム	全国大会出場へ
東北北海道	6月10日	秋田県	福島県	福島県・秋田県(地元)
関東	6月17日	山梨県	山梨県	山梨県
北信越 東海	6月 3日 5月27日	長野県 愛知県	長野県 三重県	三重県(6/17 代表決定戦で)
近畿	5月13日	和歌山県	大阪市	大阪市
中四国	5月13日 5月13日	島根県 愛媛県	広島市 徳島県	広島市(6/10 代表決定戦で)
九州	5月27日	鹿児島県	福岡県 福岡市	福岡県福岡市



品川連盟総務部長の
投球指導を受けて



大阪阿倍野ライオンズクラブの皆さん



模範試合

大阪府 対 大阪府立盲学校



範試合
大阪府 対 大阪府立盲学校



中学生
スーパープレイ!!

最後は参加者全員で記念撮影

お疲れ様でした。



チームに人あり(11)



「大阪市チーム 橋本 可奈子さん」

プロフィール
大阪市チームマネージャー
大阪市視障協 体育部長
B型 乙女座
夫と長男次男の4人家族

Q:近畿大会優勝おめでとうございます。

A:ありがとうございます。でも、今もまだ信じられない気分です。

Q:9月の全日本選手権と10月の全国障害者スポーツ大会の2つの切符手にされましたが、……

A:全日本選手権は、開催地チームとして出場させていただく事は決まっていたのですが、……。ほんと、私が言うのも変なのですが、まさか近畿大会で優勝するとは思っていませんでした。(近畿大会での)初戦は「京都」でしたし、あきらめていたとは云いませんが、まあ、出来るところまで頑張れば良いんじゃないかと思っていました。

Q:前年優勝の京都を相手に、6対5という結果でした。見事に逆転しあれで一気に波に乗りましたね。

A:初戦の勢いが残ったようで、打線がうまく繋がってくれました。野球は、やはり打たなければ勝てないなと当たり前のことですが、今更ながら実感しました。

Q:10月には、秋田大会へ出場されるのですが、マネジャーとしては大変ですね。

A:はい、平成9年の「なみはや国体では、地元開催チームとしての出場でしたので、あまり気を使うような事も無く「出場してくださいね」「ハイ わかりました」といった流れでしたが、今回は、そんなわけには行かないですね。何しろ秋田へ行くだけでも大変な事です。

—いったいどうなるのやらと……

Q:チームの状態は、如何ですか？

A:ええ、ウチのチームは、元来のんびりしてまして、例年だと今の時期とつくに夏休みなんですけど、……

Q:今回の快挙に対して一番の原動力となった選手は？

A:特に誰がという事はなく、全員です。ご承知のように、うちのチームには、特に目立つ選手はいません。大人しいというか、目立たないのが、うちのチームカラーだと思います。秋田へ行っても気負うことなく、いつもの通りに試合するんじゃないでしょうか。

Q:近畿大会での打撃力が、そのまま秋田でもでると良いですね。応援してますので、頑張ってください。

A:ありがとうございました。秋までもうわずかの時間ですが、ご声援とご指導よろしくお願い致します。

インタビュー後の感想

チームの事以外でも、大阪市視覚障害者福祉協会体育部長として活躍されている橋本さんですが、以外にもマネージャー歴は5～6年との事。もっと長く関わっておられると感じていましたが、……。激戦区の近畿ブロックで優勝するには、チームの実力だけでなく“風”も大きく作用するように思います。橋本さんがその風を起こしたのではと感じたインタビューでした。

編集後記

グラソフ通じ、世界の仲間を作ろう。羽ばたけグラソフ！！